

参考：開講時予定内容

講義名	対)金融特論		
担当教員	森澤 龍也		
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 1時限	授業形態	講義
履修開始年次	1年生	単位数	2
備考			
主題と概要			
金融論について、その根底にある基礎的な理論・考えから応用問題まで積み上げるように学ぶ。特に日本の金融事情に関連付けて講義する。また、数式展開を要する箇所については、その裏側にある経済学的な意味づけに注意しながら考察をすすめる。			
到達目標			
(1) 金融論の基礎理論から応用問題まで体系的に学び、理解することができるようになる。 (2) 日本の金融事情に関する問題を分析することができるようになる。			
提出課題			
講義中課題・レポート課題を予定している。			
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
実施した課題に関して適時、講評・解説を行う時間を設ける。			
評価の基準			
報告・討論参加： 50% 講義中課題・レポート課題： 50%			
履修にあたっての注意・助言他			
毎回、教科書を持参して、講義に参加すること。 教科書を持参していない場合は出席回数に算入しない。 遅刻・欠席は減点の対象である。 電卓を使用する場合があるので、用意しておくこと（携帯電話による代用は不可）。			

教科書				
『レクチャー&エクササイズ金融論』	森澤龍也	新世社	2200	9784883842223
プリント資料及び参考文献				
必要に応じて、担当者作成の講義レジュメおよび参考資料を配布する。参考文献については講義中に適時、紹介する。				
授業計画				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 金融取引とは 2. 日本の資金循環 3. 貨幣と利息 4. 金利計算の基礎 5. 割引現在価値の考え方と資産価格の決定 7. 金融市場と金融機関 8. 金融機関と金融組織 9. 資産金融と間接金融 10. 日本経済と金融システム 11. 市場型間接金融 12. 金融取引と情報の非対称性 13. 銀行の役割 14. 日本の金融政策 15. 日本の金融政策 				
授業形態（アクティブ・ラーニング）				
<input type="checkbox"/> ア：PBL（課題解決型学習）				<input type="checkbox"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> ウ：ディスカッション、ディベート				<input type="checkbox"/> エ：グループワーク
<input type="checkbox"/> オ：プレゼンテーション				<input type="checkbox"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）				
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
<ul style="list-style-type: none"> ・総予習 5時間：開講までに指定された教科書を通読し、全体の内容を把握しておく。 ・予習 1.5時間/回×15回：自らの教科書指定範囲を熟読し、輪講・討論のための要点をまとめておく。 ・復習 1.5時間/回×15回：教科書の再読、講義ノートの整理に取り組み、自らの内容に関する理解を深める。 ・レポート課題作成 10時間：レポート作成のための情報収集・分析・執筆に取り組み。 				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
DP (1) -1との関連性：目標を達成することでDPに貢献できる。 DP (1) -2との関連性：金融論・ファイナンス論は流通科学分野の本流科目ではないが、所定の目標を達成することでDPの「高度専門職業人として、より実践的・課題解決的な能力を身につける」ことに貢献できる。 DP (1) -3との関連性：金融論・ファイナンス論は流通科学分野の本流科目ではないが、所定の目標を達成することでDPの「専門的な研究を行い、修士論文あるいは課題研究の成果を完成させる」ことに貢献できる。				
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
輪講・討論によって講義を進める予定である。毎回、教科書の該当箇所をよく予習して講義に臨む必要がある。レスポンスを使用する予定である。				
実務経験の有無及び活用				
実務経験あり：本科目を含め、学部における金融関連科目担当の経験を活かして本講義に臨む。				
備考				
一定の経済数学の知識（微分、テイラー展開、等比数列など）を習得していることが望ましい。 毎回の予習・復習が欠かせないことを併せて留意して受講されたい。 対面原則とする科目として開講する予定である。（2021年2月15日現在）ただし、新型コロナウイルス感染症の状況により上記の開講方式については変更の可能性がある。その際はRyuka Portalの掲示にて連絡するので、講義連絡を常に確認してもらいたい。また、開講方式変更の際のシラバスについては修正される可能性がある。				